



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O KITAMURA BUSINESS CONSULTANTS OFFICE
 503 Shinsaibashi Urbanlite
 1-5-12 Nishi-Shinsaibashi Chuo-ku
 OSAKA 542 JAPAN

MARCH 1995. No. 9
 The Service Club to the YMCA
 Chartered September 25, 1982

MOTTO (1994~1995)

- IP "SERVICE WITH VISION" "ビジョンある奉仕"
 AP "TOWARDS GROWTH AND BROTHERHOOD IN GLOBAL COMMUNITY" "深めよう 地域社会に兄弟愛を"
 RD "INNOVATION WITH COURAGE, ACTION WITH HEART!" — AIM HIGH AT 6000 —
 "勇気ある変革, 愛ある行動!" — 日本区6000への実りを求めて —
 DG 「わかち合うY'S」
 CP 「レッツトライ (LET'S TRY)」 = 月間強調テーマ 「ウエルネス」 =

= 3月の聖句 =

アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。あなたは、「わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない」と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっていない。」

(ヨハネの黙示録 3章14~17節)

=== 3月第1例会 ===

日時: 1995年3月15日(水) 6:30~8:30 p.m.
 場所: 大阪グランドホテル

司会: 中村 隆幸 君

1. 開会点鐘 三浦直之会長
2. ワイズソング 同
3. 聖句朗読 笹江良樹君
4. ゲスト紹介 三浦直之会長
5. 日々の糧及び黙祷 同
6. 晩餐 同
7. 卓話「イスラエルへの旅」(仮題) 東京西クラブ 仲田 達男 君
8. お誕生日祝い
9. ニコニコ献金 ドライバー
10. Extension 報告 E M C委員
11. 役員会、委員会報告, YMCAニュース
12. 閉会点鐘 三浦直之会長

= 3月第2例会 =

日時: 1995年3月22日(木) 6:30~8:30 p.m.
 場所: 大阪グランドホテル

2月在籍者	2月出席者		2月出席率	BFポイント
33名	第1期	第2期	58%	2月分切手 3,780 pt
広義会員	18名	10名	(1/キップ計)	" 現金 0 pt
0名	メネット	5名	前月出席率	
合計	コメット	0名	修正 - %	本年累計
33名	ビジター	0名		切手 17,916 pt
	ゲスト	0名		現金 3,300 pt
	合計	23名		

◎燦々会アライズマンズクラブ

役員

会長: 三浦直之
 副会長: 掛江 康一
 " : 杉浦真喜子
 書記: 秋月 利英
 " : 栗山 佳三
 会計: 津田葉清政

◎ニコニコ献金:

31,500円

◎3月第1例会当番: (第1班) 中村君, 柴田君, 堀君, 真嶋君, 笹江君:
 会場の受付・準備・後片付けなど宜しくお願いします。

最初の「アーメンである方云々」は言うまでもなく、イエス・キリストを指していますが、それに続く言葉は、私たちの生き方を教えているように思います。

「熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいのであなたを吐き出そう」という言葉は、誠に手厳しい表現だと思いますが、私たちの生き方に対する痛烈な警告と受取るべきではないでしょうか。

過ぐる日の阪神大地震で、今もなお、日本全国が揺れています。特に「人を大切に作る運動」として、自他ともに許してきたYMCA、Y'sメンズクラブに属している私たちは、クラブの活動として、今、何か一番大切であるかというプライオリティ（優先順位）を考えて行動すべき時であると考えます。ご賛同頂けるでしょうか。

(聖句撰・解説：黒田 敏之)

2月第1例会報告

(2/15(木) 6:30 p.m.)

阪神大震災——それは忘れられていたというよりも殆ど考えもしなかった、それこそ不慮の災害であったとも言えるでしょう——を充分と言っていい程、お互い身に沁みて現実に体験した者同士が、また案じ合っていた方々が、顔を合わせる事が出来た例会。またお互い「どうでした?」と、まずは怪我もなかったことで安堵の胸を撫でおろし合って始まった例会でした。

点鐘が鳴らされる前に、司会の藤原君の奨めにより、新クラブの希望をお持ちになりながら今回の犠牲に遭われた翁美智代さんはじめ、今は亡き多くの方を偲び黙祷を捧げました。

初めに、恒例の次期役員選出のためのクラブ総会が、三浦議長により進められ、1月第2例会の趣旨に基づき、次の通り議長より提案されました。

会長：柴田君 副会長：黒田君、佐藤君

書記：栗山君、(他1名交渉中)

会計：秋月君 メネット会長：(交渉中)

中西部EMC主査：三浦君

なお、書記1名ならびにメネット会長については、2月第2例会までに決めることとし、本件は承認されました。

今月はTOFのため食事は無いものの、鈴木ご夫妻よりリーフパイと山田ご夫妻よりクッキーがそれぞれ贈られ、ホテルのカフェーと一緒に味わいながら、プログラムが進められました。

今回のお話は、月間強調テーマに因んで“CS-我々にできること”と題してCS事業委員の栗山君から伺うことにしていましたが、その前に、先日被災地の

現場で活躍された隅田メネットから、まずそのご奮闘ぶりを伺うことになりました。

その主な内容は2月のブルティンに掲載されていましたが、実感そのままを縷々話され、現場の要求が日々変るなかで、メネット会としては、出来る限り支援したいのでご協力願いたいとの要望を出されました。最も新しいところでは、タオル(20×30cm)の提供の依頼があり、至急メネットの方々により集められたとのことでした。(讃讃：2月ブルティンをご確認ください)

次いで栗山君からは、同君の所属する合唱団(讃讃：翔鈴)が創立60周年記念にウエルズのスランゴスレンという村(?)の音楽会に出演された時の話がありました。この村の音楽会が、すべてボランティアによって運営から出演者のホームステイまで世話をして開催されているという珍しいケースに驚いたものです。それもケルト語が話せなくとも温かい人間味によって、意思疎通が非常に円滑に行われ、手厚いもてなしが行き届いていたという、羨ましい話で、聴く方も話す方も、何かに憑かれたような雰囲気になりました。まさにこの村の風景やそこの人々の様子が目に浮かぶようなひと時でした。それと同時に私達にも有意義な示唆を与えられたものと思います。

(讃讃：この話のなかで栗山君は、*讃讃* 金子郁容著：“ボランティア もうひとつの情報社会”(讃讃)を推薦されました。“ボランティア、私にとって、数々の贈り物であり、勳と種に満ちたコンテストである。”など興味深い著書です)

次いで、笹江君から、大阪YMCAの救援活動について詳細な報告がありました。(尚、その内容については、別掲“兵庫県南部地震・被災地の人々を応援する市民の会 愛称：NPO応援団”並びに“大阪YMCA「阪神大震災」救援・復興活動”をご参照願います)

谷川君からは、YMCAのリーダーでハリの先生の池永さんが、ハリの仲間を集め現地で針灸の治療活動をされた報告(別掲池永さんの記事ご参照願います)はじめ、香港・ハワイからのお見舞状や募金活動について報告がありました。(別掲関連記事ご参照願います)

鈴木君からは、地震後早々に栃木県足利の青年商工会議所の方々が、阪急御影の近くでにぎりめしや福神漬を通り掛りの人々に配っていたことを話され、彼等が前もって用意をされていて、いざと言う時に当番制ですぐ対応しているというよい教訓を教えられました。

杉浦君は、「アジア友の会」の活動などから今後のボランティア活動についてよき示唆を話されました。

(讃讃の補助的な讃讃をご確認ください)その他今回の震災に因んだ多くのお話を頂き、また被災者の事も考えながら、TOFとしても意義ある例会を持つことが出来ました。これらは今後とも引続き検討すべきものであります。

なお、今回のニコニコ献金の具体的送り先は、2月第2例会にて決めることとしました。(文責：福永)

2月第2例会報告

(2/22 (木))

1. 3月第1例会：別掲プログラム確認。
2. 4月第1例会：(4/19 (木)) LT
谷川寛君スピーチ：
“21世紀のYMCAの使命を考える”
3. センテニアル次期役員選出：
2月第1例会の際交渉中の書記1名は藤井一郎君に、メネット会長は柴田メネット、補佐として隅田メネットとし、さらに会計には津田葉清政君を追加する。
4. 阪神大震災支援の件：
(1)菴江君より、阪神大震災復興事業に対するYMCAの協力依頼について、(①逆輸入バザー企画・実施、…3/4 結核も。②ボランティアのホームステイ提供、③物資配給のための車提供、④炊き出しボランティアぜんざい手伝)説明。夫々協力決定。
(2)黒田君より、川越君の救援団体支援につき説明、協力することとする。(別掲記事等ご参照願います)
2月のニコニコ献金もこれに含めて拠出すること。
5. 女性メンバー例会：
3/8 (水) 大阪グランドホテルにて行う。
6. 第2回西副区シンポジウム：(3/12 (日))
EMCについて(パネラー等は副区役員で決める)
7. 中西部評議会報告：(2/18 (土))
(1)中西部次期役員：
部長 加茂栄三君 書記 瓜生菊雄君
会計 宮直史君 監事 中川次郎君
EMC事業主査 三浦直之君
(2)日本区名誉理事に岩越重雄君を中西部として推薦。
(3)クラブレプリカ(看板)は各クラブ自由とする。
(4)日本区義援金の配分方法は、中西・京滋両部長が打合せる。
(5)中西部ワイズ勉強会は4/22 (土)開催。
8. センテニアル1泊研修会：
4/28 (金)、29 (土) 六甲研修センターにて開催。
(註：2/28 現在本会場は他の団体が予約済)
9. 第49回日本区大会：(6/3 (土)、4 (日))
横浜国際会議場他、次回例会にて多数参加アピール。
10. その他
(1)センテニアル会則：現行の分を配布、確認。
(2)中西部ゴルフコンペ：4/20 (木) 茨木 CC.
申込：3/18迄。
(3)ワイズ寄席：2/24 (金) 6:45p.m. 於大阪西YMCA
(4)和波孝禧ヴァイオリンリサイタル：3/4 (土)
開場：6:30 p.m. 於いずみホール。残券協力依頼。
(5)その他 (類：献)

《 震災救援のボランティア団体の 活動を応援しよう 》

黒田 巖之

去る2月22日の第2例会で、過日の阪神大震災への支援について「私達にできる事」を話し合いました。

そこで合意を得たのは、「直接被災者に対する義援金募集は、多くの公的機関や団体が行なっているため、本クラブとしては、救援活動を行なっているボランティア団体を応援することが適切である」ということでした。

そこで、取りあえず本会会員の川越利信君が中心となって進めているJBS(社会福祉法人日本福祉放送、理事長嶋田啓一郎同志社大学名誉教授、所在地、肥後橋交差点角「盲人情報文化センター内」)の実施しているボランティア活動並びに神戸YMCAに対する支援を決めました。

JBSに対しては、別刷りの募金運動を進めること、また神戸YMCAについては全国YMCAの動向を見て後日アクションを考えることにしました。

どうぞ趣旨をご理解頂き、会員の皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

(中西部長・阪和部長より) (要約)

チャリティーバザー開催の協力をお願い

今般西副区主催のもとに震災救援活動としてチャリティーバザーを下記要領で開催を予定しております。つきましてはチャリティー用品の(食器・台所用品)品集めにご協力をお願いします。

来る3月26日(日)ホスト西部、子ホスト京滋・阪和・中西で開催。場所・時間は未定。時間がないため、早々に会員はじめ多くの方々から用品のご提供をお願いします。

当日は、チャリティーバザー開催、ワイズカントリーバンド演奏、全員のカントリーダンス、十勝Y'sから贈られた小豆によるぜんざいの炊き出しを予定。

◎バザーによる売上金は義援金として日赤等に贈る。

時間・場所等詳細は3月12日のEMCシンポジウムの時確定しご連絡します。食器・台所用品を集めて当日会場へ持参する準備をお願いします。

+++ 阪神大震災を +++
+++ 経験して +++
杉浦 眞喜子

ユラユラ!とのゆれに「ア!地震だ」と目がさめて、どうせすぐ終わるだろうと思ったとたんドサドサ!あわてて隣に寝ている人にしがみついて「終われ!終われ!」と心のなかで叫んでもドサドサはどんどんひどくなり、「これはとんでもないことになるのかも?」との思いが頭をかすめる。その間わずか1分弱。しかしその時の私には、あの1分弱の間に我が神戸の街があのようになってしまうとは思ってもよらなかった。

ユレがおさまって、やっとベッドからはい出し、取りあえず電気のスイッチを押したが、すでに停電。まずは懐中電灯をと居間に行こうとすると、居間のドアは前に何か倒れていて開かない。なんとかドアを押し開けて入った居間は、うす暗闇のなかでも惨憺たる有り様なのが分かる。そして外を見ると、下の方に広がる街に2,3の火の手が上がっている。そんな風に、わたしの1月17日は始まった。

その日は一日電気もガスも水道も停まったまま。電話もかからない。仕方がないので、ただ黙々と割れた食器の山となった台所や、居間の片づけをしながら、やっと見つけたラジオの報道に耳を傾け続けた。そしてその日から数日は、水汲み、食料の買い出しなど、ただ“生きる”ためのことに忙しかった。そんなある日、若い男の子2人が訪ねてきて、「大丈夫ですか?」「何か必要な物はありませんか?」と聞いてくれる。「アジア友の会」のボランティアが会員宅を回っているのだった。彼らはその2,3日後には、リュック一杯いろいろな物を背負って「りんごはいりませんか?ティッシュは?」と持ってきてくれる。自分が被災者などとは思っていない我々はちょっと面喰らったが、その行動力に驚き、感心した。

数日で電気がつき、テレビを見られるようになった頃から、ボランティアの活躍を知るようになった。センチアルのメンバーでもある川越さんの活躍を知ったのもその頃だったように思う。大変な犠牲者が出て、何十万という人が避難所生活を送っているのに、住む所も我々自身にも何の被害もなく無事でいられる幸せを思うと共に、「我々だってせめて何かしなければ」という思いが強くなった。一体ワイズやYMCAは何をしているのだろうか?こんな時こそワイズが活躍するべきなのに。情報不足の我々はその頃すでに始まっていたいろいろなYMCAやワイズの働きを知らぬままに、ただあせりを覚えていた。

あれから一ヶ月余りが過ぎ、ガスがまだなのを除けばほとんど平常の生活に戻りつつある今、改めて思い出されるのは、多くの方々の有形、無形の励ましのありがたさである。かかりにくかったはずの電話を一生

懸命かけて下さり安否を問うて下さった方の何と多かっただことか! イザとなれば何でもお願い出来る方々が周りにたくさんいて下さる、そのことをほんとうに心強く感じる事が出来た。そしてさらに思うことは、この被災地のただ中に居ながら何も出来ずにいた後ろめたさである。この中にいればこそ出来たことがもっとあったのではないか? このことはこれからの我々の課題でもあるように思う。

≡≡ 救護所でのお手伝い ≡≡
平田由喜子

吹く風がまだ少し冷たく、青空の広がる2月25日(土)の午後、私達は東灘・地域助け合いネットワーク事務所に向かいました。

ここは、阪神電車の深江駅から3~4分の所にあり、ボランティア地域ネットワーク、わかち合い阪神、応援する市民の会、アジア協会アジア友の会等の方々が市橋クリニックの庭を借りてテントを建て、そこを中心にして、この地域のお年寄りの為にボランティアをされています。若い人達を中心になって、お年寄りのおられる家を一軒一軒まわり、水くみから細かい身の回りの事までお世話されています。体力があるとは云え、毎日の仕事となれば大へんな労力のいる事です。

私達はその日、おぜんざい作りと次の日(26日)に行われますバザーの品の仕分けをお手伝いしました。この品物は、主に救援物資として送られて来た古着ですが、汚れている物あり、破れている物ありで、古着といえども、これらは送る方がもっと考えなければなりません。生活用品共々1つ100円で売られるそうです。

新聞には“復興の足音が聞こえる”とか書いてありますが、街を歩けばまだまだがれきの山が一杯あり、20万人もの人達が避難所で不安な毎日を送っておられるのを思います時、微力ではありますが、出来る範囲での支援を末永くと思わずにはられません。

山田メンのお孫さんにもお手伝い頂きました。この日の事を書いたレポートを提出されるそうですが、いい記事が書けましたでしょうか。

他に、山田、杉浦両メンとコメント、佐藤、柴田、隅田、谷川、森、平田 各メネットが参加致しました。

= 3月お誕生の方 =
Happy Birthday to following people

藤本君 14日 谷川メネット 17日
鈴木君 26日 金沢メネット 29日

=====

▽ 大阪YMCA「阪神大震災」

救援・復興活動

大阪YMCAは、1月17日(火)より救援対策本部を本部事務局および国際・社会奉仕センター内に設置し、神戸YMCA、日本YMCA同盟と連携して救援活動に乗り出した。

まず、神戸YMCAの緊急依頼によりスタッフを派遣し、活動を開始。また、それと並行して、各地域YMCA、ワイズメンズクラブ、地域の方々への救援物資の調達と収集を呼びかけたり、給水と運搬車の手配、炊き出し等の活動を始めた。

現在、大阪YMCAは日本YMCA救援東本部を引き受け、西宮YMCAを現地拠点に活動を展開している。委員、教職員、リーダー、ワイズメン、専門学校学生等多くの人達が、自転車による物資の配達、うどんや豚汁の炊き出し、ゲーム、レクリエーション指導等さまざまな活動を展開している。その他、有志による医療診療所の開設、鍼灸ボランティア、人形劇団「ゼベット」による公演、西宮ワイズ会員で大阪府立大学の倉石哲也先生を中心とする「子どもの心のケア」も行っている。ここに記載できないところでも、多くの方々が多様な形で積極的に活躍されている。緊急を要する援助物資協力の他にも、これから長期に亘るであろう地域援助活動や復興活動のための募金活動も開始され、多くの方々からの協力を得ている。皆様のこれら全てのご奉仕に深く感謝致しますと共に、今後共継続してご協力下さいますようお願い致します。

(上記文章は、“OSAKA YMCA NEWS”臨時号の「阪神大震災」救援・復興活動—真嶋克成国際・社会奉仕センター所長の文章の要約です。)

= BF 2月分報告 =

(BFポイントは第1面に掲載)

◎切手・現金提供者(続)

津田葉、足立、谷川、山田、三浦、平田、田中、栗山、*杉浦、*黒田、福永、藤井、**隅田、**藤原、柴田

(*、**：それぞれ同ポイント)

以上 15名 pt順

▽ 兵庫県南部地震・被災地の人々を

応援する市民の会 愛称：NPO応援団

笹江良樹

1月17日(火)早朝、阪神・淡路大震災は想像を絶する被害をもたらしました。この時態に国や行政にすべてをお任せではなく、日頃市民活動を行っている個人や団体が集い、現地の諸団体と連携を取りながら被災地での救援活動を展開しようと、大阪YMCA、大阪ボランティア協会、地域調査計画研究所、関西NGO協議会、たんぼぼの家、経団連1%クラブ、日本青年奉仕協会などを呼びかけ、団体として「応援する市民の会」が大阪YMCA国際・社会奉仕センター内に誕生した。

当初は、唯一鉄道による交通手段が確保されていた阪急「西宮北口」駅前に現地事務所を開設。平日でも300人~400人、週末には時には700名を超える市民が緊急復興救援活動に取り組んできました。その後鉄道の復旧に伴い、芦屋市に現地本部事務所を移転、神戸市東灘区には「出張所」を開設し、現在は西宮市、芦屋市、さらに神戸市東灘区周辺を活動範囲として取り組んでいる。

今後は、被災直後の緊急救援活動のような「応援する市民の会」単独の行動から、「東灘・地域助け合いネットワーク」の試みのように、地元被災地のボランティアグループや被災者と一致協力したり、あるいは地元のボランティアグループや個人が取り組む復興事業を支援する態勢へと活動形態を地元主導へと徐々に移行していきます。

[追記]

具体的活動は、近隣住民への物資提供、洗濯、荷物出し、廃材処理、外出同伴をはじめ、ホームステイ先の紹介、生活情報の提供等多岐に亘っています。

(今月の月間強調テーマ)

ウエルネス Wellness

人間生活を個人的にも社会的にも健全なものにしようという運動。現代人を取り巻くストレス・運動不足・環境破壊などに意識して立ち向かい、こころ・からだ・人間関係のすべてにわたって、あるべき姿を追求する。YMCA同盟は「ウエルネスセンター」を設置してその普及に取り組んでいる。

(“Handbook & Membership Roster 1994-1995”より)

ああ、神様、仏さま!!!
なんでもいいや、ありがとう!!!

鍼灸ボランティア 池永 栖子
(坂下式耳鍼研究会大阪支部)

「あの一瞬で、世界が変わった」と1月29日に始めたばかりの患者さんの一人がボソッとつぶやいた。

倒れた家財で家族をかばって、体を痛めた人。暖房がないので寒い。かぜをひいて治らない。いつもかかっていた医院の倒壊で困っている人。水くみで肩や腰が痛い。子供を亡くした人。眠れないなどなど。ショックと不安でひきつった表情のままの人々が顔をのぞかせた。

大地震以来、毎日報道される状況に、同じ関西圏の弱かったとは言え、同じようにゆられた大阪に住む人はきっと同様のショックを受けたと思う。

何とかお手伝い出来る事はないか、と言う友人の声に「よし!」と大阪中央YMCAの古い友人をたずねてみた。昔勤めていた頃とは違って、すっかりきれいになったYMCAは、少し敷居が高かったが、顔をのぞかせてくれた人々は昔なつかしい仲間だった。

「今一番必要なものは?」ときくと、「お金と仕分けの手。」との答。さもあらん! でもお金はない。手ならあるが、開業しているため何日も家をあける訳にはゆかない。目をあけながら出来ることを考えて、この鍼灸ボランティアを申し出た。

「仲間ならある! いや、きっとある。」と信じて。

寒い事と衛生面を考えて、発足したばかりの坂下式耳鍼研究会大阪支部でやってみることにした。これならハりは一本も刺入しないで済むから。

「被災した田中総主事に、やってみて!」との声でまずは一人目。そして、救援対策本部の知人にと、内容を見てもらった。そして、今後、ショックと寒さの為様々な病気、症状が考えられるが、そのケア対策として、この鍼灸、殊に耳ばりは役立つことを説明したところ、即座に頼むとの返事がかえってきた。

耳鍼は、不眠、肩こり、肩・腰・膝の痛みにも効あることは師から教えられわかっていたが、心理面のケアに最適だとかねがね考えていた。被災された人々ばかりでなく、各ボランティアの人達の疲労回復も考えてのことなので、ボランティアにも受けてほしいと頼んでおいた。

またYMCAとしては、1回限りではなく、続けてほしいとの意向があり、水曜と日曜と決定。即座の決定のため、その場で友人達にも電話で4日後の日曜を確約しなければならなくなった。

西宮YMCAのボランティアに、物資配給と同時に市内各避難所、家庭にピラを作り、配布してもらった。業者にはベッドと温熱照射器(遠赤外線)をYMCA

まで運んでもらい、そこから緊車で輸送してもらった。

第1日目の1月29日に集合場所に集った仲間達をみてびっくり。亡くなった方達も多いからと花を持っている人。もしもの事があったらと、携帯コンロまで持つて来る人。水を多めに用意する人など、それぞれの物心両面の準備に、本当に頼もしさを感じた。

YMCAの方で用意してくれた幼児教室は、あっと言う間に治療院に変わり、準備は出来たが、来てくれる人が居るかどうかと心配だった。しかし始めてみると、そんな心配どころか忙しいこと。往診もある。みんな必死でがんばってくれて、その日の人数は45人の受療者となった。自転車で走りまわった組はヘトヘト。

2月1日、5日、8日、12日、15日、19日、22日、と毎日新しい人が増えて行き、延人数300人は遙かにこえた。そして、タイトルの有難い言葉まで頂戴してみんな気恥しい喜びも味わいました。

初日からずっと皆勤の人もある。1回目の夜から、喘息が消えた、胸の疲れや腰の痛みがとれたと喜ばれ、近くの町内の掲示板に、治療日が貼り出されていると知って、ますますがんばらなくてはと、帰っても毎日の患者さんへの治療も力が入ってしまう。

YMCAを知らなかった仲間もいるし、ボランティアという事を改めて考えさせられたという友もいる。ハりを一本も持たないで治療をする事にびっくりする新しい仲間もある。忙しい仕事の合間に無理を承知で頼んだのに、逆にこんな機会を与えてくれて、ありがとうと感謝される始末。ほんの7、8人の仲間だが、その何倍もの動きをしてきている。何よりも嬉しいのは、大阪で耳はり(坂下式)はずっと1人だったが一挙に多くの仲間が出来た事だった。千葉の坂下孝則先生は弟子にまかせておけないと、83才の高齢をも省みず、「行く」とがんばって家族を困らせているらしい。やっとの事で、3月に研究会を開くことでおし止めた。

2月22日には長野Y'sの今井さんにお手伝い頂きました。私にとってはYMCAの古い知人に再会し、まるで同窓会の気分。仲間からはYMCAって何? Y'sって何?と聞かれ、潜越ながら説明までして……。本当はよくわかっていないのに…ネ。まだY'sの会員でもないのに、こんな投稿をするなんて、考えもしなかった…。

良い仲間と仕事をする喜びまで再確認できた場を与えてくれたYMCAに感謝します。身にすぎた言葉を頂いた被災地の方達へも感謝でいっぱい。そして、一日も早く、いつも通りの笑顔のもとって来る日を心より祈っています。アリガトウゴザイマシタ。

谷川 寛

14-02 '95 12:13 952 257 7167

CHI LIEN

阪神大震災から一ヶ月以上になりますが、海外のブラザーから救援の手が差し延べられています。

香港ボヒニアの Sophia Fong 会長は、ワイズの香港地区のワイズメンに働きかけ、目下救済募金のキャンペーンをすすめており、どのような種類の義援金があるのかを問い合わせています。

ハワイ・ヌアヌクラブの Mae Hiranaka さんは、私たちのメンバーに次々と電話をしてくれ、安否をたずねてくれました。また目下ハワイ地区の救援活動の様子を報告してくれています。ハワイのYMCAにつらなる人々は、老いも若きも、神戸支援のための品々を集めパッキングをしている様子を報じている新聞を送って来ています。

ハワイ区理事 Gordon Inouye, ヌアヌの Maurice Shimonishi さんが中心になり、アメリカの各区のワイズに支援の輪に加わるよう働きかけています。そして、被災にあった神戸のYMCA関係者及びワイズメン、その家族に募金及びお見舞のメッセージを贈ることを予定しています。

(ホノルルの新聞紙に掲載された支援物資のパッキング状況)



Advertiser photo by Gregory Yamamoto

John Uraniurhi, a seventh-grader at Kailua Intermediate School, sorts and folds clothing headed for earthquake victims in Kobe, Japan.

Dear Mr. Kan Taniyawa

14th Feb. 1995

I am glad to know you and the members of OSAKA CENTENNIAL CLUB are all safe and well. The other damages can be fixed later.

As we have heard from the news so that we are going to have a donation for those suffering most and needing help because of the earthquake on 18th Feb. by Hong Kong District.

I thought that if the Y's Man Club of OSAKA has any project of those who have suffered serious damages, we are decided to join in with the donation. We, all the club in Hong Kong, are willing to know the detail of your project. We also want to know that if our donation can be made into an amount around HK\$15,000.00 to HK\$20,000.00 we can buy the things you need from Hong Kong and post it or by sending the Bank Draft.

I hope you don't mind it's only a small amount but we really hope we can help a little. Hearing from you for we take our action.

By the way, I am glad to hear that you will come to Hong Kong on 16th March, '95 please let me know the flight number and time. There will have a 14th Anniversary of T.S.T. Club held on

Y.M.C.A. of T.S.T. D.G. Andy Fu asked me to invite you for this celebration, if you have time. Also our club member are waiting for your coming and hope to meet you in dinner time.

Best regards to you, your family and all members.
May God Bless you all.

Y's Sincerely

Sophia Fong

Good things grow out of a disaster

Japan's quake generates aloha

Three students from Campbell High School would have been "making trouble and fighting" yesterday if it hadn't been for a killer earthquake. Instead of "doing things that give teen-agers a bad name," the kids packed food and clothing in a military warehouse on Sand Island Access Road for quake victims in Kobe, Japan. They belong to a YMCA outreach program.

"We're helping people in Japan," said Ren Fajardo.

"It's like we're using our time wisely," said Rose Coleman.

"What's so good about helping?"

"You're making a change in somebody's life," explained Shannell Acosta. "At least, we're not the people on the couch wishing they were doing something. We're doing it."

The can-do spirit brought together an odd assortment of good Samaritans determined to relieve the suffering of cold, homeless quake survivors by sending warm clothing and food under a program launched by the YMCA.

Television producer Talonna Adams, who would otherwise had been attending executive meetings, spent her third day packing blankets, sheets and towels.

"In a strange, crazy way, the earthquake brings us all together," she said. "If it happened to us, I hope the rest of the world would do this."

Paul and Elise Gsell would have been playing golf. Instead they were sorting, buttoning, folding and packing sweaters. They are semiretired from the travel and property management business.

"We're both born and raised in Kobe," said Paul. "Fifty years ago, I was on the receiving end. We were bombed out and received boxes like this. After 50 years, I'm returning the favor. It's good to be on the giving end."

"I talked to my aunt on the telephone," Elise said. "People have to stay outside



Bob Krauss
Advertiser
Columnist

HOW TO HELP

WHAT'S NEEDED: Canned and dry food; toilet paper; plastic sheeting; winter clothing; first-aid kits; disposable diapers; other staples.

WHEN: Today through Sunday

WHERE TO TAKE SUPPLIES:

- Fire stations on all islands, 9 a.m. to 6 p.m.
- YMCAs on all islands, 9 a.m. to 6 p.m. through Saturday. Nuuanu and Central YMCAs, 24 hours through Sunday.
- Pro Bowl, Aloha Stadium main entrances, noon to 1 p.m. Sunday.

VOLUNTEERS NEEDED: To help sort and pack relief supplies, call 531-3558.

because their houses might collapse if they went in. They are cold. They can't bathe or cook. Cooking and water heating is done by gas."

Jessica Lopez and Kami Fujimori of Kailua Intermediate School said they would be at home watching television if their peer education program coordinator hadn't brought them across the Pali to help pack clothes. Students in the program help others solve their problems.

"I'd rather be here," said Jessica. "At least here you're helping others. It just makes you feel good."

A YMCA organizer of the program said that 1,000 boxes had been sent to Kobe via Japan Airlines.

谷川 寛

ロンドン、ジュネーブでの仕事を終り、1月22日(日曜日)、ヒスロー空港から関空行きの英国航空17便に乗りました。地震の影響からかアッパー・デッキはガラ空気で4/5人の乗客しかいませんでした。

渡されたFT誌は、地震の死者が既に5,000人以上に達したと報じていました。出発まぎわになって、私たちのまわりの空席に10名近い青年男女がドヤドヤと乗り込んで来ました。いずれも20才から30才代の英国人で、みんな同じ作業着姿です。あの自動車修理工場でみかける上下が繋がったユニフォームです。し

かし、油污れなどなく新しい服装です。ウスイ水色の作業服の胸には、英国の旗ユニオン・ジャック、背中には INTERNATIONAL RESCUE TEAM (国際救助隊) と刺繍されています。

私の隣りの席にすわった女性に問いかけてみると、これから全員が阪神大震災の現場に救援活動に行くのだ、という答がかえって来ました。彼女は英国で全国チェーンをもつ CHEMIST (薬局) の "BOOTS" に働いており、本職はコンピューターのプログラマーですが、ボランティアとして、国際救助隊に入っているのだそうです。1月17日の地震の翌日には、スタンドバイ(待機)するよう指令があり、待機していたそうです。日本の関係当局との交渉が長びき、やっと今日(1月22日)に出発することになったと云っていました。ノ

彼女は、ヨーロッパの災害に何度か出動した経験がありますが、会社はいずれも有給休暇にしてくれるそうです。10名の仲間は、リーダーの一人を除いて、皆んな本職をもっており、このような災害救援活動にはボランティアとして参加しています。英国全土に500人以上が登録しているそうです。

普通は、災害発生の翌日には出発し、5日間ぐらい現場で作業して、帰国し、翌日には職場に復帰します。今回は災害発生後5日間も経っての出発であり、救助活動がうまくゆか心配だ、ともらしていました。彼女に言わせると、災害救援はきびしい仕事だが、困っている世界の隣人を助けることが出来るすばらしい仕事だと、話してくれました。

(Nuuanu Y's Men's Club, "Nuuanu Y's Up" (Feb. 1995)に掲載された阪神大震災関係の記事)

News About The Osaka Centennial Y's Men's Club

On the evening of the Kobe Earthquake the HIRANAKAS were miraculously able to get through to Kobe and talked to PIP KENSUKE and MIFUJI SUZUKI and were very elated to hear that they were fine. The Hiranakas had a homestay with them in Kobe and were very concerned. Telephone calls to Osaka was a constant busy signal so other calls had to be made later. KAN TANIKAWA faxed a letter to inform us that no member of the club suffered any physical injury. Some members have experienced damages to household goods. But the Kobe YMCA has sustained heavy damages and the Osaka YMCA has also suffered some structural damages. They would like to thank everyone for the many thoughtful messages by telephone, fax, letters, and prayers. If anyone wants to contact Kan, please phone or fax him 011-81-75-982-3660.

Kobe Earthquake Relief Fund seeks your help!

After the devastating earthquake that leveled a major modernized metropolis of the Kansai (Kobe/Osaka) area, the Hawaii Region wishes to lead the Y's Men's support to the YMCA's recover. A special fund has been set up and administered by MAURICE SHIMONISHI.

The funds will be given to the Japan Region of the Y's Men International in support of the YMCA recovery. Our effort, although small compared to the major cost for recovery, sends a message of concern and comfort to our fellow Y's Men.

Please send your support to:

KOBE EARTHQUAKE YMCA RELIEF

c/o Maurice Shimonishi
2768 Laniloa Road
Honolulu, Hawaii 96813

Y's Men help with Mission Aloha

The appeal for manpower help in the MISSION ALOHA project for the Kobe Earthquake Relief Program, a statewide effort to send greatly needed supplies to earthquake devastated Kobe/Osaka area of Japan, was received by the Y's Men ... with response from members, family, friends and other related organizations (Boys Scout troops).

We were unable to take a specific tally of the numbers volunteered during the 10 day period, but the Friday (February 3rd) effort provided may Y's Men along with other YMCA and community volunteers in sorting, boxing, and labeling of the various canned and dried foods, paper products, disposable diapers, and clothing to be shipped to Kobe through the generosity of Japan Airlines.

Thank you for your help!

☺ニコニコ・メッセージより☺

- 天災からの一日も早い立ち直りを祈ります。
 ……金沢善郎
- 阪神大震災のために。具体的な用途は第2例会の協議にまかせる。
 ……黒田蔵之
- 震災の復興のため、活動されている人々にご苦勞様と申し上げます。私も何かお役に立ちたいと思っています。
 ……栗山佳三
- 阪神淡路島大震災で被災された方々が、一日でも早く元の生活に戻れますように心よりお祈り申し上げます。
 ……笹江良樹
- 次期役員選出で、会長に選出され、重責に身のひきしめる思いです。
 阪神大震災にワイズメン、ワイズメネットの方々のボランティア活動のお話を聞き、感激。
 ……柴田 健
- 1ヶ月夢中で過したような気がします。無事であったことに感謝。
 そして、YMCA、ワイズがいろいろな活動をしていることを知って感謝。
 ……杉浦眞喜子
- 神戸大震災に対し、YMCAとワイズメンのすばらしい活動ぶりを知ってうれしい思い一杯。
 ……鈴木謙介・美藤
- 震災後、皆様と共に元気に出席出来た事を感謝申し上げます。被災地復興が一日も早く成りますように願っております。
 ……隅田恵子・保
- 被災者の平安を祈っています。
 ……田中穰二
- 阪神大震災は私達に大きなショックでした。
 早い復興をお祈りします。
 ……田中豊子
- 神戸で被災したワイズメン及び神戸YMCAを救援するために捧げます。
 ……谷川 寛
- 震災にあわれた方々に御見舞申し上げます。
 2月14日現地を見てきました。少しでもお役にたつ事が出来ればと思います。
 ……津田葉清政
- 久しぶりに例会に出席し、皆さんの無事なお顔を拝見し、うれしく思っています。
 ……中村隆幸
- 例会欠席が多く申し訳けございません。
 ……平田雅利
- 例会を持つ事が出来たことは感謝！被災された方々のお役に立つように念願して。また3月1日(水)より入るレント(襪)を思いながら。
 ……福永嘉彦
- 今回の大地震に対するわが国内外の支援の活動報告をお聞きし、大きな感慨にひたった次第です。
 一日も早い復興を祈るとともに、出来る丈の奉仕をしたいと思っています。(身近な人々に対することは当然ですが)
 ……藤井一郎
- 鈴木さん、山田さん始め今般の震災で罹災された皆様のお元気なお姿に接し、本当に嬉しく存じております。何かと大変なこと、存じますが、お体にお気をつけの上、頑張って頂きたいと思っています。
 ……藤原正巳

- 久しぶりに皆さんの元気な顔を拝見して、うれしかったです。
 ……三浦直之
- 大震災の中心部に住んでいて、大した被害を受けなかったことをいろんな意味で厳しく受けとめています。
 ……山田孝彦
- 震災に会われた方にお見舞申し上げます。本朝から芦屋へ応援に行っていました。震災のすごさに胸がいたみました。一日も早く復興されます様お祈り申し上げます。
 ……山村利子
- 阪神大震災一日も早い復興を心から念じています。
 ……森 晴美

《御案内》 (隅田メネット会長より)

(1) 京滋部合同メネット会

日時： 3月18日(土) 11:00~15:00

場所： ウィングス京都 (☎ 075-212-7470)
 (京都市中京区東洞院通六角下る)

費用： ¥3,000

講演：『骨髄バンク』の理解をより深めるために
 講師 春山先生(京都社会保険病院)

(2) 阪和部合同メネット会

日時： 4月22日(土)

場所： 白寿苑 (☎ 0736-26-0148)
 (和歌山県伊都郡かつらぎ町日高)

費用： ¥5,500 (JR和歌山から白寿苑までのタクシー代も含みます)

ゲストスピーチ： 戸西葉子さん
 (かつらぎ町在住エッセイスト)

昼食： 山菜料理

ご出席の方は隅田までお知らせ下さい

◆◆◆ クラブ・ソング ◆◆◆

Once more we stand, new zeal our hearts imbuing;
 We raise our hand, Our service pledge renewing,
 Ne'er to deny our motto's claim,
 Y's Men in fact as well as name,
 Always our objects to pursue,
 We consecrate ourselves anew.

うたえば ころろひとつに
 ともがき ひろがりゆきて
 とおきも ちかきもみな
 ささげて 立つワイズメン
 さかえと ほまれゆたか
 まことは 胸にあふれん

〔編集後記〕 引続き被災者の方々のためにお祈り致します。特に健康が守られ、また明るい希望が与えられ、更に一日も早く復興できるますように。○今月は生気に溢れる貴重な記事に満たされて。感謝!(Y.F.)